



年頭にあたり

北海道細胞検査士会 会長 中村厚志

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお喜びを申し上げます。

この新しい年が皆様にとりまして実り多く充実した1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年の総会で、会の名称を北海道細胞検査士会と変更した平成26年度事業も第27回細胞診従事者講習会を残すのみとなりました。今回の特別講演には熊本大学医学部附属病院病理部の三上芳喜先生に「子宮頸部腺癌はどこからくるのか」と題しご講演を頂きます。また、シンポジウムでは「LBC検体（標本）導入に向けての課題と展望」のテーマでメーカー4社と細胞検査士2名にお話をお願いしました。今後導入を見据えている施設も多いかと思えます。本シンポジウムがその一助となると考えます。是非多くの会員の参加をお待ちしています。なお、今年度より本講習会の主催を北海道臨床細胞学会と北海道細胞検査士会とし、専門医のクレジットも申請します。

平成26年度事業のメイン事業でもある「ホームページの見直し」を行いました。北海道臨床細胞学会（理事長 山城重勝先生）のご協力のもと、7月10日に北海道臨床細胞学会のホームページを開局しました（<http://cytology-hokkaido.p2.weblife.me/pg203.html>）。そこに細胞専門医と細胞検査士のページをリンクし運用しています。細胞検査士会のページには各地区紹介のページもリンクされています。ホームページ活用の一環でプレパレートサーベイ回答をWeb上でも出来るよう本年度初の試みとして行っています。皆様のご協力をお願いいたします。また、情報発信源を事務局長に一本化し、日本臨床細胞学会や細胞検査士会役員会、都道府県代表者委員会などの報告や情報を発信してきました。まだまだ至らない面もあります。皆様の率直なご意見を引き続きお聞かせください。

会員への迅速な情報伝達や相互の意見交換などを目的に「さくさくネット」を利用したメーリングリスト登録作業も行ってきました。ホームページ担当の内田さんと徳永さんにはご苦勞をおかけしております。**1月18日現在、90名**が登録されています。今後は専門医の先生方にも登録していく予定です。

学術活動の他に、昨年4月にLOVE49街頭啓発活動、11月には札幌臨床検査技師会からの協力要請で「検査 de フェスティバル」での細胞検査士アピール活動を皆様の協力のもと行ないました。

なお、第27回細胞診従事者講習会時に、平成27年度北海道細胞検査士会の総会を開催します。多くの会員の出席で総会を成功につなげたいと思います。

最後になりますが、この1年、充実した有意義な活動を通じて会員皆様に様々な情報や技術提供できるよう行なってまいります。より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



メーリングリストへの登録のお願い

北海道細胞検査士会として、会員への情報伝達手段の一つとしてメーリングリストを開設し、北海道臨床細胞学会や北海道細胞検査士会からの情報配信に利用したいと思います。現在、細胞検査士会役員および道央地区会員に対して、登録および試験運用を行っています。また、このメーリングリストは各地区会内での連絡にも使用可能となっております。本趣旨をご理解頂き、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

[詳細は、今回の同封添付資料やホームページをご覧ください。](#)

第53回 秋期大会(下関) 学会見聞録



「第53回日本臨床細胞学会秋期大会に参加して」 札幌徳洲会病院 渡邊 達也

11月8日～9日に山口県下関市にて日本臨床細胞学会秋期大会が開催されました。出発の朝には雪がちらついていた札幌をあとに、福岡空港へ降り立ちました。その足で、まず太宰府天満宮へ行き学問の神にお祈りをし、気合いを入れて下関へ向かいました。今回は北海道の細胞診従事者講習会、シンポジウムのテーマでもあるLBCに関する演題を中心に、他には医療安全やセルフアセスメントスライドカンファレンスに参加しました。各LBC法の出現細胞の比較やセルブロックを活用する際の工夫は大変参考になりました。特に印象に残ったのは甲状腺細胞診におけるLBCの有用性についての演題で、不適切標本の減少や標本観察の注意点について解説されており、勉強になりました。医療安全セミナーでは優れたスキルを持っていても、他職種のスタッフと連携できなければ、そのスキルを十分に発揮できない。一人の患者様に対して、協力して医療を提供することが大切であるという内容でした。また、学会のテーマは「細胞診断学の向上とがん診療への貢献を目指して～新時代での精度管理を中心に～」であり、自己の精度管理を目的にセルフアセスメントスライドカンファレンスに初めて参加しました。症例は30例あり、スライドを見て回答用紙に記載・投票し、その後に解説するという流れでした。内容は典型例から自施設では見られない症例までありましたが、改めて自分の苦手な分野を再認識できました。

学会のあとは疲れた体を癒すため、今回の大きな目的でもあるフグを食べに行きました。刺身は職場の先輩に聞いていた通りポン酢の味で、期待し過ぎたせいか感動は少なかったですが、他のフグ料理も堪能できて大満足でした。私の一押しはフグの唐揚げでした。会計は少々驚きましたが、良い人生経験になりました。

今回の学会は、講義やセルフアセスメントなどに参加し、充実した2日間を過ごすことができました。学んだことを持ち帰って、がん診療へ貢献できるよう日々の職務に努めたいと思います。

検査 de フェスティバルに参加協力して

北海道対がん協会 茂木 由紀

札幌臨床検査技師会主催の「検査 de フェスティバル」が昨年11月にサッポロファクトリーで開催されました。北海道細胞検査士会も共催し、道央地区会の会員9名が参加協力しました。

細胞検査士会は「がんコーナー」を担当し、乳がん模型を使った触診体験やパネルとリーフレットを用い、がん予防の啓発活動と細胞検査士の紹介を行いました。

初めての会場で不安もありましたが、全体のべ人数2000人、がんコーナーは400部のリーフレットを配布することが出来、大盛り上がりでした。



第35回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会 終了

去る11月30日(日)、札幌医科大学教育研究棟 臨床大講堂において、第35回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会が開催されました。学会長である松野吉宏先生のもと、296名という多数の会員の参加により、盛会のうちに終了しました。



特別講演には、滋賀県立成人病センター 研究所所長 京都大学名誉教授 真鍋俊明先生をお招きし、「細胞診と私一事始めからネットワークによる精度管理を求めるようになるまで」と題して、アメリカでの病理レジデント研修時代から帰国後、アメリカ式病理部の立ち上げまでのお話、そして、これから先の病理における精度管理体制についてご講演いただきました。その中で、「臨床検査技師としての細胞検査士に求められるものは、安全性、精密度であり、また、そのための一定水準の確保である」というお話もありました。「最終的には患者さんに貢献するための精度管理、情報の共有化である」という観点からも、当会の事業の1つであるプレパラートサーベイによる精度管理の必要性を改めて感じさせられるものでした。また、一般演題、スライドセミナーにおいても、今後の細胞診断への参考となる症例、研究報告が多数なされ、たいへん有意義な学術集会でありました。(文責 安孫子)

2014年細胞検査士認定試験合格者 おめでとう 新たな仲間たち

鈴鹿 淳	北海道大学医学部 腫瘍病理学分野	吹谷 美佳	北海道大学病院病理部
山田 理絵	岩見沢市立総合病院	小林 亜紗美	札幌臨床検査センター
松尾 和彦	札幌臨床検査センター	淀野 亜沙美	ジェネティックラボ
栄田 尚子	旭川赤十字病院	佐井 絵里花	市立室蘭総合病院
五十嵐 勇太	滝川市立病院	松崎 直也	小樽協会病院
小泉 潤	旭川医科大学病院 病理部		(敬称 略)

合格者から一言

「周囲に助けられての成果」

市立室蘭総合病院 佐井絵里花

室蘭市内に病理検査室をもつ病院は3施設あります。昨年、一昨年と当院以外の2施設で受験者が続きましたが、どちらも一度で合格しており、少しプレッシャーを感じつつ受験をすることになりました。それでも、年齢が近いこともあり、様々な面で助けていただきました。練習問題を作ってもらったり、手技の確認をしてもらったり、北海道での模擬試験の他に室蘭地区で模擬試験をして、本番に臨んだような状態でした。地方である為、珍しい症例は少ないのですが、地方ならではの病院同士の連携を感じました。

また、自施設においても、それぞれポイントの解説や、わからないところがあるたびに一緒に鏡検し指導いただきました。「ありがとうございます」よりも「大変ご迷惑をおかけしました」の一言に尽きます。

努力の成果というよりも、周りに助けられた合格のように思います。未熟な点も多い私ですが、今後も日々勉強し、頑張っていきたいです。

「細胞診試験を終えて」

滝川市立病院 五十嵐 勇太

合格するために毎日勉強することは当然のことだと思いますが、集中力をもって持続させることはとても大変でした。そんな時には先輩技師に相談することや、思い切って休むというのも一つの手段だと思いました。集中できる時に実際の試験をイメージして勉強しました。しかしながら、自分一人だけの力では到底不可能であり、自施設・他施設の様々な方々に大変お世話になりました。合格することができたのもこのような周囲の方々の支え、協力があつたからこそだと思っております。本当にありがとうございました。

これからも日々努力し、一日でも早く皆さんのように働けるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器細胞診研修会 終了

平成27年1月17日（土）、北海道がんセンター大講堂において、呼吸器細胞診研修会が開催されました。講演と実習を内容とした研修会で、参加者57名（実習47名）が熱心に受講していました。

北海道がんセンター臨床研究部長山城勝重先生による司会で進められ、北海道大学病院病理部部長 松野吉宏教授より「非小細胞肺癌の病理診断：微小検体での層別化とコンパニオン診断」と題して講演があり、続いて大阪大学大学院医学研究科 南雲サチ子特任教授から「肺の腺癌および早期扁平上皮癌の細胞形態」と題して講演がありました。実習は10グループに分かれ、30症例を鏡検と Zavic を用い、グループごとに討論しながら診断を行う実習で大変有意義な勉強会でした。最後に本会の中村会長の挨拶で研修会は終了しました。（文責 野崎）

【 研修会に参加して 参加者からの感想 】

- 組織型を見極めることの必要性・重要性をあらためて感じました。
 - 北大を拠点とした道内のコンパニオン診断や細胞像から遺伝子変異を予想するという講義は大変興味深かったです。
 - クロマチン増量の程度や核小体の個数などの異型の強弱で遺伝子変異の結果がわかるという話は興味深かったです。
 - 細胞像から遺伝子変異を予測できるということは業務上なかなか知る機会が少なかったので、大変勉強になりました。
- 鑑別方法などわかりやすく説明していただき、これからは活かしていきたいと思います。
- グループに分かれ標本や Zavic を見ながらディスカッションするのがとても勉強になりました。とても貴重な症例ありがとうございました。これからは活かしていきたいと思います。
 - 細胞診標本を鏡検し、あらためて細胞形態の鑑別やそれぞれの特徴などを見比べることが出来ました。
 - 南雲先生の形態学からの遺伝子変異アプローチと「クロマチンが増えていないから、核小体がめだつのだ」という名言は、目からウロコでした。
 - コンパニオン診断や最新の国際的動向を学ぶ事が出来ました。



今後の予定

- 第 69 回細胞検査士ワークショップ：平成 27 年 2 月 28 日～3 月 1 日 香川大学医学部 病理実習室
- 第 27 回細胞診従事者講習会：平成 27 年 3 月 8 日（日）札幌医科大学臨床教育研究棟 臨床大講堂
- 北海道細胞検査士会総会：平成 27 年 3 月 8 日（日）札幌医科大学臨床教育研究棟 臨床大講堂
- 第 56 回春期大会：平成 27 年 6 月 12～14 日 島根県松江市 くにびきメッセ・松江テルサ
- 第 70 回細胞検査士ワークショップ：平成 27 年 7 月 18～19 日 福井県立病院・福井大学医学部
- 第 40 回細胞診断学セミナー：平成 27 年 8 月 6～9 日 日本教育会館
- 第 36 回北海道臨床細胞学会総会並びに学術集会 平成 27 年 11 月 1 日 旭川大雪アリーナ
- 第 54 回秋期大会：平成 27 年 11 月 21～22 日 愛知県名古屋市 名古屋国際会議場
- 第 71 回細胞検査士ワークショップ：平成 28 年 3 月 12～13 日 福岡大学メディカルホール

<編集後記>

日本列島、豪雪にみまわれておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。2015年も宜しく願い致します。今年から学会誌もいよいよ電子媒体になるようですし、今後ますますホームページ（HP）の活用が重要になると思います。北海道細胞検査士会の HP も担当者の努力により日々進化を遂げております。是非 HP にアクセスして新しい情報を入手して下さい。また広い北海道では情報が伝わらないことがあるため、メーリングリストを使って、新情報を個人にタイムリーに直接配信出来るようにしたいと考えております。メーリングリストへの登録もお願いしたいと思います。ご理解とご協力をお願い致します。（文責 野崎）